

平成 28 年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	児童館における体験教室・学習支援事業
事業主体 (連絡先)	NPO 法人ワーカーズコープ 松本事業所 (松本市城東 2-6-17 ハイツリラ 101 号)
事業区分	(5) 子育て支援 (1) 保険・医療・福祉の充実に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,021,575 円 (うち支援金: 817,000 円)

事業内容

1. 学習支援

継続してきた学習支援から見えてきたものは、大人が寄り添うことで子ども達は自ら学ぼうとする姿勢を見せるということだった。塾とは違った視点で参加者一人一人が考える場所として、外部講師がサポートした。自ら学びたいと思う子どもの居場所として定期的実施した学習支援だが、新たな課題として貧困の問題がクローズアップされるなか食育と一緒に実施する必要性を実感している。



【学習支援】

2. 食育

1に記述したように、学習支援の継続とともに食の必要性も実感してきた。孤食を防ぐ意味や自立へのサポートとして、地域やフードバンク信州とも連携して学習支援と食を結びつけた。



【体験教室】書道

3. 体験教室

子ども達の体験不足を補うために実施してきた体験教室だが、児童館それぞれの地域性や必要性に応じて変化がでてきた。利用者の希望や要望を取り入れながら子どもたちの成長に繋げている。

体験教室で自信をつけた子どもたちは、日常生活にもいい影響が出てきており、保護者会などでもこれからの継続を望む声強い。

4. 講演会

保護者、地域、職員に向けて生きづらさを抱える子どもたちに大人ができることを学ぼうと「CAP」の講演会を実施した。

市民サポートセンター主催の「ぼくらの学校」に「いどうじどうかん」として出店し、多くの市民が参加できるようにした。



【CAP講演会】

事業効果

① 学習支援と体験教室を継続してきたことで、各館の地域との結びつきは確実に強化された。その中で、生活困窮を抱える地域、裕福でも文化的な貧困の見られる地域、住民一体となって課題に取り組める土壌のある地域など、実態が掴めてきた。

【目標・ねらい】

① H26・27年と継続してきたことで見えてきた新たな課題を解決するために、各館で地域を巻き込みながら一児童館だけの取り組みに終わらない広がりを目指す。

そこで各館で目の前に見えてきた課題をどうしたら解決できるか考え、学習支援と食との連携や、子どもたちの仲間意識を育むための木育など児童館発信で地域の連携を呼びかけ多くの方が携わって下さった。

それにより児童館以外の場所での子どもの居場所づくりにつながった。

② どこかに自分の居場所があるという安心感のために、さまざまな体験教室を実施し、学習支援でも自信をつけている子どもたちが増えている。同時にそこに関わる地域の方、大人たちが子どもの笑顔を生きがいにして関わり続けて下さっていることは、この事業を実施した大きな収穫だと思う。利用者、講師、ボランティア・・・関係者が交流を図りながら自分たちで主体的に居場所づくりをしていくきっかけづくりができた。

③ これらの事業を補助金なしで継続するための方法を常に考えながら運営にあたってきたが、今年度はいよいよ具体的な方策を考えて 29 年度の事業計画を立てた。

アンケートをとり利用者の要望を取り入れながら、各館で事業内容の見直しと予算計画を綿密に立て、必要なすべての事業を継続するめどが立った。

② 子どもだけでない居場所づくりの必要性を感じたことで、学習支援も体験教室も参加者の主体性を育みながら自分たちの力で環境づくりをしていくようにする。

③ 長野県地域発元気づくり支援金の終了後も継続して事業を続けてくことを念頭に置いた事業運営をする。

※ 自己評価【 A 】

【 理由 】

補助金利用の最後の年にあたり、今後の展開も念頭に入れながらの運営をしてきた。

体験教室、学習支援を継続してきたことは行政への積極的な働きかけともなり、困窮者支援だけにとどまらない地域づくりに発展してきている。

今後の取り組み

- 各児童館で必要とされている事業の継続と、新たな課題を解決するための自主事業に今後も積極的に取り組む。
- 3年間この事業を継続して得られたノウハウを、利用者、地域とを結びつけるコーディネーターとしての役割に生かしていく。
- 学習支援と食育の繋がりのように当初は予想もしなかったことが、ここ2、3年で大きくクローズアップされてきている。常にアンテナを張り、子どもたちから見える地域の課題を拾い上げていく。